

クリント・イーストウッド監督作品



BARDO

ノバード



アメリカ人の生活には、第2幕はない。—F.スコット・フィッツジェラルド

ワーナー・ブラザース映画提供/マルパソ・プロダクション
"バード" フォレスト・ウィティカー/ダイアン・ペノラ/音楽レニー・ニーハウス
脚本ジョエル・オリアンスキー/製作総指揮デビッド・バルデス

DOLBY STEREO

製作・監督クリント・イーストウッド

オリジナル・サウンドトラック/OBSソニー・レコード

WARNER BROS.
WARNER BROS. PICTURES
© 1977 Warner Bros. Inc. All Rights Reserved



俳優クリント・イーストウッドを“監督として一つのピークを築いた”と評価させる作品となったのがイーストウッド監督13本目にあたるこの『バード』である。88年5月カンヌ国際映画祭に正式出品。オープニングに上映されて喝采を博し、チャーリー・パーカー役のフォレスト・ウィティカーに最優秀男優賞、その音響に対して特別優秀技術賞をもたらした。世界に先がけてパリで公開されて大ヒットを記録し、続きアメリカで公開され多くの批評家たちに絶賛され、見事ゴールデングローブ賞/最優秀監督賞を受賞した。

これは、1930年から50年代にかけてジャズの革新“ビ・バップ・ムーブメント”の一大推進者として活躍した伝説的ジャズ・サクソフォン奏者チャーリー・“バード”・パーカーと彼に影響を与え続け、尽くした女性チャンの生涯を綴った感動の映画である。

自らピアノを演奏し、ジャズに精通するイース

トウッドが他社の企画で長い間ねむっていたジョエル・オリアンスキーの脚本に惚れ込み、彼自身がホームグラウンドのワーナーで撮ることになったいわく付きの作品である。彼はニューヨークが世界のジャズの中心地であった当時の52番街のオープン・セットを組み、数々の歴史的な名演をよんだパーカーの神技をまじえながらそれを支えたジャズメンの悲劇的生きざまを的確に演出している。

主演のフォレスト・ウィティカーは「ハスラー2」「プラトーン」「グッド・モーニング・ベトナム」で着々と伸びてきた有望株。妻チャン役のダイアン・ベノラは本作品でニューヨーク映画批評家協会賞/最優秀助演女優賞を受賞。他にサミュエル・ライト、マイケル・ゼルニカー、キース・デビッドが共演。音楽監督のレニー・ニーハウスがパーカーのオリジナル演奏を生かして全編に散りばめている。

1988年カンヌ国際映画祭

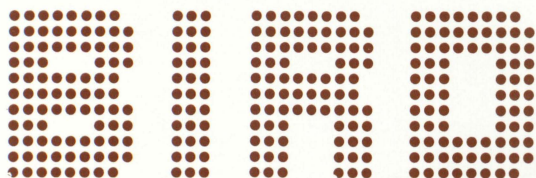
最優秀男優賞受賞
フォレスト・ウィティカー
特別優秀技術賞受賞

ニューヨーク映画批評家協会賞

最優秀助演女優賞受賞
ダイアン・ベノラ

ゴールデングローブ賞

最優秀監督賞受賞
クリント・イーストウッド



バード

ジャズを変えた男!! チャーリー・“バード”・パーカー

ジャズ・ファンがパーカーと言った場合、それはけっして万年筆のことではなく、十中八九までチャーリー・パーカーを意味するものと思ってい。そのパーカーのニックネームが「バード」であり「ヤードバード」。ニックネームの由来には諸説あるが、ともかくハイスクール時代からそう呼ばれていたという。

チャーリー・パーカーはジャズ史上最高の即興演奏家であり、30年代～40年代のスイング・ジャズにとってかわった新しいジャズ＝ビバップの元祖であり、モダン・ジャズの基礎を作った最大の功労者である。チャーリー・パーカーなんて知らないよという人でも、たとえばジョージ・シアリングが作曲した「バードランドの子守唄」、あるいはウェザー・リポートやマンハッタン・トランスファアのヒット曲「バードランド」といった曲は知っているかもしれない。これらの曲は1948年にオープンしたニューヨークのナイトクラブ「バードランド」をうたったものだが、パーカーの愛称「バード」にちなんで命名されたのは言うまでもない。パーカーのラスト・ステージは1955年3月

5日、場所は奇しくも自分の名前がつけられたこの「バードランド」だった。パーカーはその一週間後の55年3月12日にわずか34歳の若さで亡くなるが、彼の死後数時間のうちに「Bird Lives」という落書きがニューヨークのあちこちで見かけられた。「Bird Lives」……「バードは生きている」。このコトバをそのままタイトル化したパーカーの伝記も出ているが、見事なまでに本質を突いたコトバ。80年代も終わりに近づいた今日でさえ、まったく色褪せていない名文句だ。なぜかという、現代のジャズといえどもパーカーの遺産におうところが大きく、パーカー抜きにジャズは語れないからである。それにジャズの即興演奏家としてパーカーはズバ抜けた存在で、その後パーカーを超えた人はひとりもいないからである。マイルス・デイビス、ソニー・ロリンズといったおなじみのジャズメンにしても、パーカーを手本にすることで成長した。その意味で、パーカーはモダン・ジャズの原点でありモダン・ジャズそのもの。ジャズメン、ジャズ・ファン的心中の今なおパーカーは生き続けているのである。

スタッフ

製作/監督……………クリント・イーストウッド
脚 本……………ジョエル・オリアンスキー
総指揮……………デビッド・ヴァルデス
撮 影……………ジャック・N・グリーン
美 術……………エドワード・C・カーファノ
編 集……………ジョエル・コックス
音 楽……………レニー・ニーハウス

キャスト

“バード”/チャーリー・パーカー……………フォレスト・ウィティカー
チャン・パーカー……………ダイアン・ベノラ
レッド・ロドニー……………マイケル・ゼルニカー
ティジー・ガレスビー……………サミュエル・ライト
バスター・フランクリン……………キース・デビッド
少年時代のバード……………ティモン・ウィティカー

WARNER BROS.
A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY
©1988 Warner Bros. Inc. All Rights Reserved



3月31日(日)ロードショー
特別鑑賞券¥1200(当日 ¥1600均一の処)発売中

シネマスクエア
とうきゅう
新宿ミラ座横3F (232)9274

全自由席定員制●入替制

※満席および上映中の入場はできません。

連 日 10:00 1:10 4:20 7:30

●レイトショーはありません。/上映時間 2時間40分